

試験調査船「北洋丸」による魚探調査

平成26年4月21～23日に実施した計量魚探調査および海洋観測の結果を報告します。

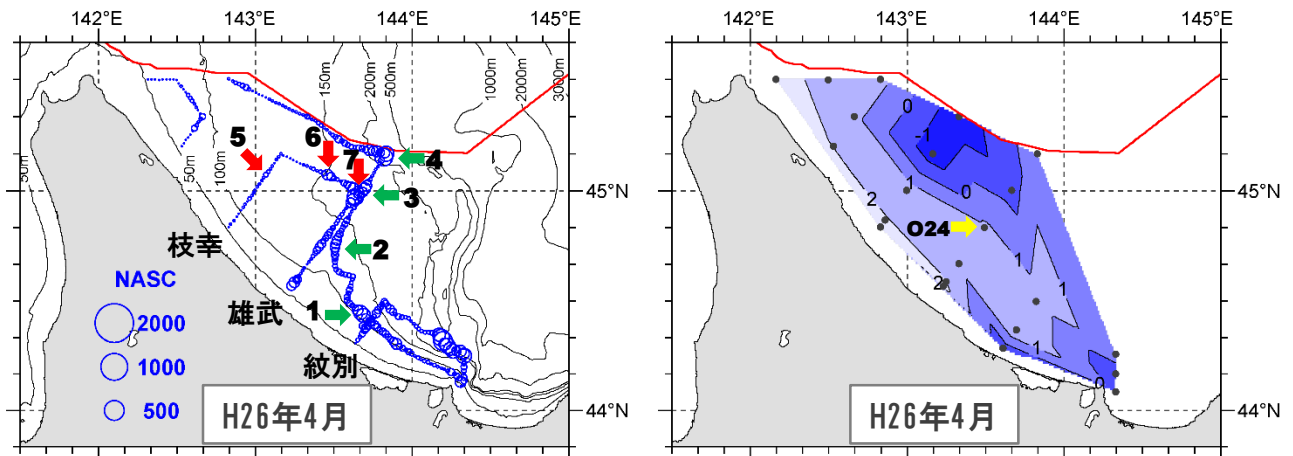


図1 魚探反応量 (NASC m^2/nmi^2)

図2 底層水温分布 ($^{\circ}C$)

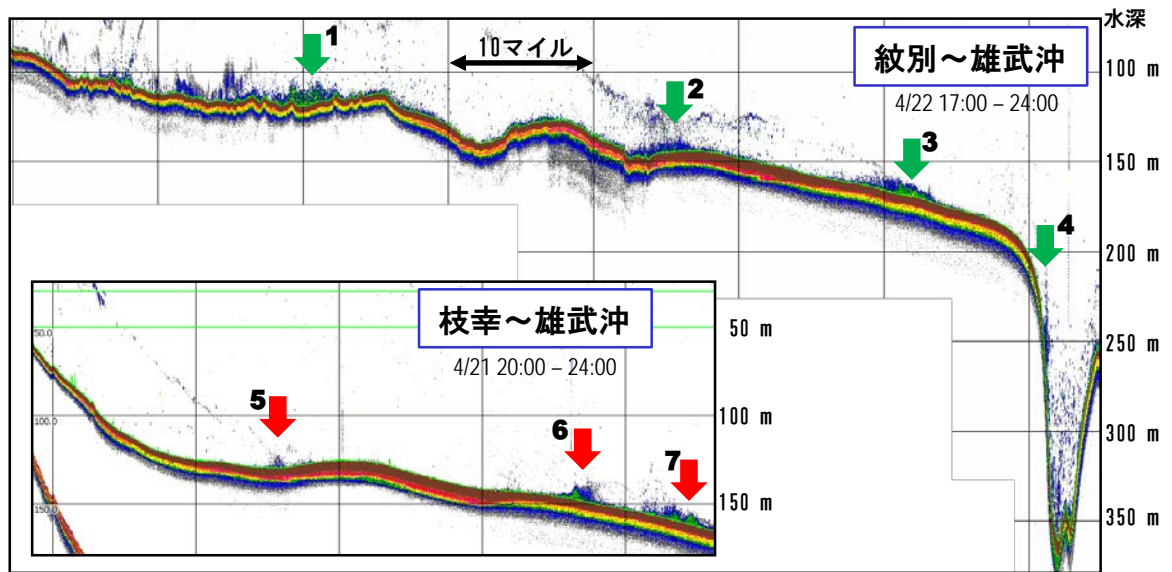


図3 魚探反応画像 (矢印の色・番号は図1に対応)

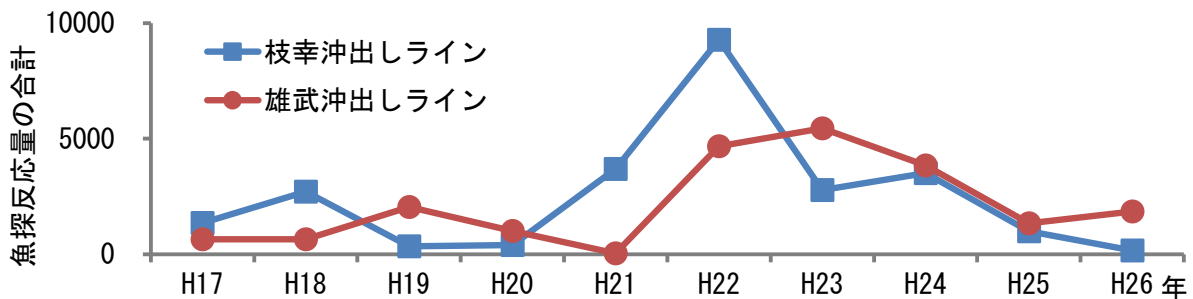


図4 魚探反応量の経年変化 (枝幸と雄武からの沖出し直線部分のみで比較)

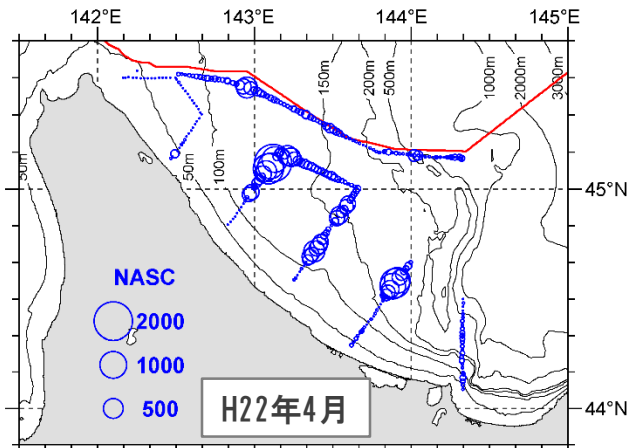
スケトウダラと思われる魚群は主に紋別堆南部と北見大和堆南部に分布していましたが、H25年4月と同様にH22～24年と比べると反応量は小さくなっていました。

底層水温は多くの定点で $2^{\circ}C$ 以下となっており、雄武沖の深度140m (定点024) では、過去20年で最低水準の $1.2^{\circ}C$ となっていました。

※今年は4月下旬においても紋別・網走沖に海氷が残っていたため、調査予定海域の一部で魚探調査および海洋観測が実施できませんでした。

昨年までの結果

魚探反応量 (NASC m^2/nmi^2)



底層水温分布 (°C)

